

受付番号/受付日		演題番号	
----------	--	------	--

HA コーティングインプラントを用いた骨移植を伴わない Transcrestal Sinus Floor Elevation の 10 年間の後ろ向き臨床検討

○岸本 幸康
岸本歯科医院

【目的】上顎臼歯部の歯牙欠損部では、垂直的骨量の不足のためにインプラント治療が困難になる場合が少なくない。骨量の不足を補うため Sinus Floor Elevation や Transcrestal Sinus Floor Elevation により上顎洞粘膜を剥離挙上してインプラントの埋入が行えるようになってきた。一般的には、その挙上部に自家骨移植や人工骨の補填を行い、インプラントの埋入が行われることが多い。自家骨移植は新たな手術創を作ることになり、患者にさらなる負担をもたらすことになる。さらに移植した骨は時間の経過とともに吸収することが知られるようになってきた。他家骨や異種骨は感染の危険性を完全に排除することができない。また、移植骨や人工骨が上顎洞に漏出して上顎洞炎が発生することがある。そのため、骨移植なしで Sinus Floor Elevation が行えれば理想的と考えられる。一方、HA コーティングインプラントは早期にオッセオインテグレーションが獲得されることが知られている。今回、HA コーティングインプラントを用いて自家骨や人工骨の補填をしない Transcrestal Sinus Floor Elevation を適用して埋入されたインプラントを 10 年間後ろ向きに評価することにより、同術式の臨床的有用性を検討する。

【対象と方法】平成 16 年 3 月から平成 26 年 12 月までの 10 年 10 カ月の間、上顎洞粘膜の挙上部に自家骨移植や人工骨の補填を行わず、HA コーティングを用いて Transcrestal Sinus Floor Elevation を適応してインプラントの埋入を行い、上部構造の装着が完了した 107 症例 175 本に対して検討を行った。使用したインプラントはすべてアドバンス社製 AQB インプラント 1 ピースタイプである。Inclusion Criteria は以下のとおりである。

- 1) 上顎洞病変がない。
- 2) インプラント治療の反対側での垂直的顎間距離が保たれている。
- 3) 上顎洞底骨が 1mm 以上残存している。

【結果】オッセオインテグレーションを獲得したのは 107 症例 175 本中、106 症例 174 本であった。すなわち 1 症例 1 本はオッセオインテグレーションが得られなかった。この例は上顎洞粘膜が破れたが埋入を行った症例であった。さらに、上部構造の装着が完了し機能開始後に脱落したのは 4 症例 5 本であった。上顎洞炎などの重篤な合併症は発生しなかった。

【考察および結論】本研究の結果より、骨移植を行わない Transcrestal Sinus Floor Elevation は予後良好な信頼性が高い治療法であると考えられる。また、自家骨採取のための新たな手術創を作らない低侵襲な治療法であるばかりでなく、補填材の漏出による上顎洞炎が発生する危険性がないことや、他家骨や異種骨による感染の危険性がない有効なインプラントの埋入法と考えられる。さらに、HA コーティングインプラントを使用したことで、比較的短い治療期間で上部構造が装着されたと思われる。しかしながら、Transcrestal

受付番号/受付日		演題番号	
----------	--	------	--

Sinus Floor Elevation は盲目的な手術手技のため、上顎洞粘膜の損傷が少なくなる手術法を開発することが治療の成績を向上させると考えられる。